

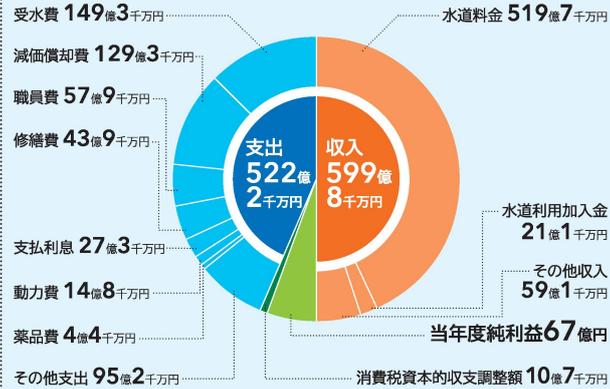
平成29年度決算のご報告

決算の詳細については、[神奈川県企業庁ホームページ](#)に詳しく掲載しています。 **神奈川企業庁 決算 検索**

近年、水道料金収入は減少傾向にありましたが、平成29年度は前年度に比べ若干の収入増となりました。平成29年度に確保した利益67億円は、水道施設の耐震化や老朽化対策などに活用してまいります。

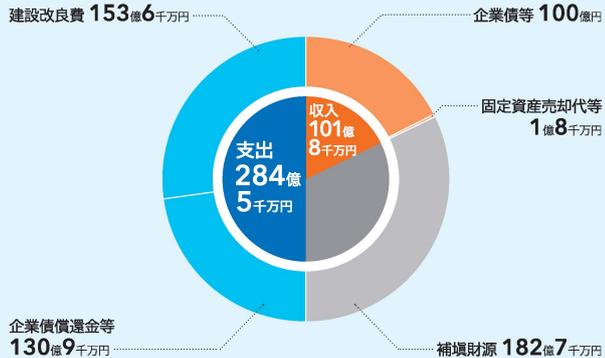
収益的収支

水道水をつくり、ご家庭にお届けするための費用とその財源



資本的収支

水道施設をつくるために要する費用とその財源



主な事業内容

- ① 水道施設の耐震化 **109億円**
- ② 水道施設の修繕など **85億円**
- ③ 老朽管の漏水調査 **2億円**
- ④ 災害時の応急給水体制の促進 **2億円**



漏水調査



水道管工事

参考 水道水1㎡に係る費用の内訳

合計 153円	
受水費	44円
減価償却費	38円
職員費	17円
修繕費	13円
その他支出	28円
支払利息	8円
動力費	4円
薬品費	1円

※全てのグラフの数字は千万円未満を四捨五入しているため、合計額には符合しません。※金額は税込。

LINE Pay

請求書支払い

LINEで水道料金のお支払いが便利です!

24時間いつでも
支払い可能

払い忘れの
リスク軽減

銀行口座、セブン銀行ATM、Famiポート、ローソンのレジでチャージできます。詳細はLINE Pay公式ブログで→



「4千人」。この数字は県営水道が給水を開始した直後の昭和9年、まだ水道が当たり前ではなかった頃に、県営水道の水を利用していた人の数です。それから84年経った現在では、県営水道は、その700倍にあたる282万人の県民の皆さまに、水道水を毎日送り続けています。

この間、人口の増加や郊外の宅地開発等にあわせて、ダムや浄水場をはじめ、配水池やポンプ所、管路等、数多くの施設を整備してきました。川から水を取り、飲める水として各ご家庭のじゃ口まで水を届けるためには、様々な施設が必要です。これらの施設を維持していくためには多くの手間がかかり、古くなれば更新が必要となります。人口減少社会で水需要が減少しても、水をお届けするためには、これからも水道施設を維持していかなければなりません。

そこで県営水道では、平成26年度から配水池等統廃合事業として、配水池等の数を減らすことに取り組んでいます。この取組みは、これまで必要だった施設でも他の施設の能力を使って機能を補えないかなど、将来の水需要の減少も考慮して改めて施設の必要性を検証し、配水池、ポンプ所や山間部にある小規模な水源を減らしていくというもので、いわば県営水道が行う「断捨離」のようなものです。県営水道が将来にわたり持続し、水道が当たり前の存在であり続けるための取組みの一つとして進めています。

配水池等の統廃合



▲写真: 水道管を運ぶ様子 (昭和初期、湘南地方)

22世紀に
つなぐ
インフラを
めざして

水道
100歳
時代